

甲斐三十三観音霊場御詠歌

順番	寺院名	宗 派	地 名	ご 詠 歌
1	河浦山薬王寺	高野山真言宗	市川三郷町上野	市川や 千歳(ちとせ)をわたす 迎い舟 後の世までも 安く渡さん
2	豊田山永源寺	曹洞宗	中央市下河東	世を照らす 光を永く 伝えんと 源寺(みなもとでら)に ひくぞたのもし
3	市瀬山光勝寺	高野山真言宗	市川三郷町上野樋田	いちの瀬や 一世を登る 迎い舟 後の世までも たのもしきかな
4	八田山長谷寺	真言宗	南アルプス市榎原	梓弓(あずさゆみ) あずさの橋の 観世音 導きたまえ 知るも知らぬも
5	広沢山興蔵寺	真言宗	甲府市宮原町	神にさえ 貸す宮原の 興蔵寺 ふた道かけて たのめ観音
6	深草岩屋観音堂	臨済宗	甲府市上積翠寺町	かき分けて 来たれば深し 岩堂の 露の恵みの あらんかぎりは
7	天童山福寿院 (旧慈眼寺)	曹洞宗	甲府市西下条町	あわれみの まなこを照らす 慈眼寺の 光はまさる 後の世の月 七曜の 姿は空に あらわれて 五濁(ごじょく)悪世も てらす御仏 なにごとも 心すなおに 持つならば 祈らんとても 救う観音
8	金剛福聚山法 泉寺(旧瑞祥寺)	臨済宗妙心寺派	甲府市和田町	はるばると 登りて見れば 瑞祥寺 峯の嵐か 松風の音
9	瑞雲山長禅寺	臨済宗	甲府市愛宕町	明らかや 照らす小山の 月影は 大光明を 放つとぞみる
1 0	大雄山福王寺	臨済宗妙心寺派	甲府市上町	盛りなる 頃は嵐の 福王寺 花のごとくに 人を助けん
1 1	飯室山大福寺	真言宗智山派	中央市大鳥居	飯室(いむろ)や 十(とお)や一つの 観世音 深き利生も 叶うなりけり
1 2	般若山金剛寺	曹洞宗	甲斐市宇津谷	はるばると 聞いて尋ねて 来てみれば まわり川路に 亀や住むらん
1 3	津金山海岸寺	臨済宗妙心寺派	北杜市須玉町上津金	補陀落(ふだらく)は 余所(よそ)にはあらし 津金なる 大悲も深き 海の岸 寺
1 4	菩提山長谷寺	真言宗智山派	笛吹市春日居町鎮目	みな人が 菩提のたねと 作りおく 後の世までも 頼もしきかな
1 5	法城山観音寺	臨済宗	笛吹市石和町市部	大いなる 石もやわらぐ 観音寺 力を頼む 後の世までも
1 6	裂石山雲峰寺	臨済宗妙心寺派	甲州市塩山上萩原	花もさけ 石のうえ木の 春ごとに 枯たる枝の 萌よい出るらん
1 7	深草山瑞岩寺	臨済宗	甲府市上積翠寺町	尋ねきて 悟り開かる 岩戸山 露の恵みも 深草の里

18	秀森山清水寺	臨濟宗向嶽寺派	甲州市塩山上井尻	井尻なる きよき清水を 汲みあげて 秀森山と 急ぐこのたび
19	岩泉山清水寺	真言宗智山派	山梨市市川	岩清水 流れをとえば きよたきの さこそ浄土も ゆかしかるらん
20	知足山光雲寺	浄土宗	山梨市大野	くも林 前なる水を まきあげて 吹くや大野の 原の秋風
21	岩泉山光福寺 上の堂	浄土宗	甲府市横根町	足引きの 山の岩戸に つくりかけ まことの観音 浄土なるらん 足引きの 山の横根に あとたれて あさ日と共に 迎う来光
22	岩泉山光福寺 下の堂	浄土宗	甲府市横根町	あかつきの 雲もよこねの 観世音 心を渡す 前のふな山 あかつきの 雲もよこねに たなびきて 心の闇も 晴れわたるらん
23	正法山常楽寺	曹洞宗	笛吹市境川町藤壘	うち向う 心ひとつの 坊ヶ峰 万(よろず)の罪も 消え失せにけり
24	月光山清光院	曹洞宗	笛吹市一宮町一ノ宮	一の宮 聞いて尋ねて 来てみれば 森の木陰に 神やすむらん
25	金剛山安楽寺	真言宗智山派	笛吹市石和町下平井	聞くからに 清き平井の 尽きぬ水 涼しき空に 松風の音
26	中浮山心月院 (旧光善寺)	臨濟宗建長寺派	笛吹市八代町高家	さおしかの 渡る高家(こうか)の 光善寺 前の清水で 浄土なるらん
27	龍湖山方外院	曹洞宗	身延町瀬戸	さやからで 風も絶えせぬ 西の湖(うみ) 月もろともに 浄土なるらん 本栖にて 流れも清き 川尻の 大悲のお願い また浮かぶ瀬戸
28	妙法山本郷寺	日蓮宗	南部町本郷	春霞 南部の郷(さと)の 岩戸山 海はなけれど 舟よせの松
29	岩水山高前寺	曹洞宗	市川三郷町鴨狩	岩に立つ 鴨狩村の 高前寺 岩間の道を 分けや行くらん
30	岩殿山真蔵院	真言宗智山派	大月市賑岡町岩殿	朝日さし 夕日かがやく その下に 夜も円(まど)かに 月の通り路
31	熊埜山西光寺	臨濟宗建長寺派	上野原市野田尻	秋の夜に 長峰照らす 月影を さやかにうつす 八沢(やっざわ)の池
32	少林山徳岩院	曹洞宗	甲州市勝沼町上岩崎	谷深き 岩さきかかる 藤の花 ただ紫の 雲というらん
33	光沢山青松院	曹洞宗	甲府市山宮町	砥石坂 登りて見れば 山宮の 仏の光 照る沢の山 よろず世の 願いをここに 納めおく 光り絶えせぬ 照沢の寺

*2011年1月、『御詠歌集』と『甲斐国三十三ヶ所巡礼記』（藤巻勝、平成17年）に基づき作成。